# 「成人インフルエンザ関連重症例」の研究

石田　直
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院呼吸器内科主任部長

要旨　日本呼吸器学会のインターネットサーベイランスによる，成人のインフルエンザ関連重症例（入院例および肺炎例）の検討を行った．重症例は基礎疾患を有する高齢者に多く認められ，肺炎合併例が半数弱を占めていた．

KEY WORDS
インフルエンザ，重症，インターネットサーベイランス，高齢者，細菌性肺炎

## はじめに

インフルエンザは，自然軽快傾向のある上気道炎症状から，致死的な呼吸不全に至るまで，幅広い臨床像を呈する疾患である．また，インフルエンザに合併あるいは続発して種々の病態が発症し，特に高齢者においては，肺炎が超過死亡の原因となっている[1) 2)]．インフルエンザ感染の重症化は，基礎疾患として血管内皮細胞に機能障害を有する人や，エネルギー代謝の未熟な乳幼児や代謝の破綻しやすい高齢者に多いと考えられている[3)]．表1に示すような病態が，インフルエンザ合併症のリスクグループとされている[4) 5)]．

一方，重症患者を中心としたわが国での診療実態や予後に関するエビデンスはいまだ不足している．そのため日本呼吸器学会では，より詳細な重症患者の情報を収集し，今後の診療へフィードバックできるエビデンスを構築することを目的に，学会が運営するインターネットシステムを新たに構築し，学会員を中心に広く症例の具体的情報を集めて，そのデータを解析することとした．2014/2015年シーズンから開始となり，現在5シーズン目の集積が行われている．

本稿では，このインターネットサーベイランスに登録された症例を解析して，わが国における，インフルエンザ関連重症例の臨床像を探っていきたい．

## インフルエンザ・インターネットサーベイランスの概要

日本呼吸器学会は，2014/2015年のインフルエンザシーズンより，インターネットサーベイランスを開始している[6)]．日本呼吸器学会員および協力学会員が所属

SAMPLE



Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.